大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	G143110111408	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	熊本高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	地域から日本を支える熊本高専 ― ファーストベンギンズDXプロジェクト ―
学校種	高等専門学校	都道府県	熊本		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応		
令和6年度	<p>【情報系組織の入学定員】 令和6年4月1日時点の入学定員 (1) 情報通信工学科(40) (2) 制御情報システム工学科(40) (3) 人間情報システム工学科(40) 3月 以下の6学科・3コースを申請等予定 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)</p> <p>① 10月 情報教育推進補助のための教育体制の整備（情報教育担当事務補佐員4名採用、うち自己負担分2名、令和15年度まで） ② 次年度以降の教員確保のための旅費を支給</p>	<p>【情報系組織の入学定員】 【令和6年4月1日時点の入学定員】 (1) 情報通信工学科(40) (2) 制御情報システム工学科(40) (3) 人間情報システム工学科(40) 3月 以下の6学科・3コースのうち(1)～(3)の収容定員増に係る学則変更の認可申請 ※(1)～(3)の学科設置は令和7年4月に届出、(4)～(6)のコース設置は学則変更で対応予定 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)</p> <p>① 10月 情報教育推進補助のための教育体制の整備（情報教育担当事務補佐員2名）（R7.2.10承認） ② 次年度以降の教員確保のための旅費を支給</p>	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。	<p>① 令和6年10月より4名の事務補佐員の雇用を計画していたが、募集しても適正な人材を新たに確保することが困難であったため、既に全額自己財源で雇用している事務補佐員2名がエフォート管理により当初計画で予定していた業務の一部を実施するよう計画を変更した。また、令和6年度に計画していた残りの業務については、既に全額自己財源で雇用している職員が分担して対応するため、事業実施に支障は無い。 ② 今年度、教員確保に係る活動は、学会参加等の別用務に併せて行ったことにより、本助成金からの旅費の支出はなかった。</p>
令和7年度	<p>【情報系組織の入学定員】 (1) 情報通信工学科(40) (2) 制御情報システム工学科(40) (3) 人間情報システム工学科(40)</p> <p>① 8月 熊本キャンパスBYODによる情報探究系人材教育のため教室10室の環境整備改修(竣工予定日：9月) ② 4月 情報探究系人材教育のため共同利用教室（カンファレンスルーム、PBL演習室、多目的教室、ICTホール、ICT演習室、TE科PC室、HI科PC室、演習室、CI科PC室）の改修工事の実施(竣工予定日：翌3月) ③ 4月 情報融合系新設のため高度情報PC室を整備改修(竣工予定日：翌3月) ④ 4月 情報融合系新設のため教室ゆびに研究室を整備(竣工予定日：翌3月) ⑤ 4月 情報探究・融合系人材教育のための高性能パソコンを購入 ⑥ 4月 情報探究・融合系人材教育のための周辺機器を購入 ⑦ 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備（情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名） ⑧ 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員の確保（情報セキュリティ担当 1名採用） ⑨ 4月 ⑧用の教育用パソコンを購入 ⑩ 4月 ⑧用の赴任旅費を支給 ⑪ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑫ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑬ 次年度の教員確保のための旅費を支給</p>		R7年度自己評価	リストから選択してください。	
令和8年度	<p>4月 以下の6学科・3コースを設置予定 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)</p> <p>① 4月 情報探究系人材教育のため共同利用教室（基礎実験室、情報セキュリティ演習室）の改修(竣工予定日：9月) ② 4月 情報セキュリティ教育のための実験装置の購入 ③ 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保（情報セキュリティ担当 1名継続） (AI担当 1名採用) (システム制御担当 1名採用) (データサイエンス担当 1名採用) ④ 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備（情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名） ⑤ 4月 ③用の教育用パソコンを購入 ⑥ 4月 ③用の赴任旅費を支給 ⑦ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑧ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑨ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R8.4～R12.3) ⑩ 非常勤講師派遣旅費</p>		R8年度自己評価	リストから選択してください。	
令和9年度	<p>【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)</p> <p>① 4月 AI教育のためのAIサーバーの購入 ② 4月 情報探究・融合系人材教育のための計測機器、実験機器を購入 ③ 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保（情報セキュリティ担当 1名継続） (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名採用) (ケモトックス担当 1名採用) (電子デバイス担当 1名採用) ④ 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備（情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名） ⑤ 4月 ③用の教育用パソコンの購入 ⑥ 4月 ③用の赴任旅費を支給 ⑦ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑧ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑨ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R8.4～R12.3) ⑩ 非常勤講師派遣旅費</p>		R9年度自己評価	リストから選択してください。	
令和10年度	<p>【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)</p> <p>① 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保（情報セキュリティ担当 1名継続） (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名継続) (ケモトックス担当 1名継続) (電子デバイス担当 1名継続) ② 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備（情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名） ③ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R7.10～R12.9) ④ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R7.10～R12.9) ⑤ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R8.4～R12.3) ⑥ 非常勤講師派遣旅費</p>		R10年度自己評価	リストから選択してください。	

令和11年度	【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保 (情報セキュリティ担当 1名継続) (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名継続) (ケモトリス担当 1名継続) (電子デバイス担当 1名継続) ② 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備 (情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名) ③ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R7.10~R12.9) ④ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R7.10~R12.9) ⑤ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R8.4~R12.3) ⑥ 非常勤講師派遣旅費			
令和12年度	【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報探究・融合系人材教育のための高性能パソコンを購入(更新) ② 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保 (情報セキュリティ担当 1名継続) (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名継続) (ケモトリス担当 1名継続) (電子デバイス担当 1名継続) ③ 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備 (情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名) ④ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R7.10~R12.9) (R12.10~R16.3) ⑤ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R7.10~R12.9) (R12.10~R16.3) ⑥ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R12.4~R16.3) ⑦ 非常勤講師派遣旅費			
令和13年度	【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保 (情報セキュリティ担当 1名継続) (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名継続) (ケモトリス担当 1名継続) (電子デバイス担当 1名継続) ② 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備 (情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名) ③ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R12.10~R16.3) ④ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R12.10~R16.3) ⑤ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R12.4~R16.3) ⑥ 非常勤講師派遣旅費			
令和14年度	【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保 (情報セキュリティ担当 1名継続) (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名継続) (ケモトリス担当 1名継続) (電子デバイス担当 1名継続) ② 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備 (情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名) ③ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R12.10~R16.3) ④ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R12.10~R16.3) ⑤ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R12.4~R16.3) ⑥ 非常勤講師派遣旅費			
令和15年度	【情報系組織の入学定員等】 (1) 電子情報通信工学科(43) (2) 知能制御情報工学科(43) (3) 情報工学科(43) (4) 機械知能システム工学科機械知能情報コース(7) (5) 建築社会デザイン工学科建築社会情報コース(7) (6) 生物化学システム工学科生物化学情報コース(7)		R15年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 情報探究・融合系人材教育のための教員を確保 (情報セキュリティ担当 1名継続) (AI担当 1名継続) (生体情報担当 1名継続) (システム制御担当 1名継続) (UAV/三次元測量担当 1名継続) (ケモトリス担当 1名継続) (電子デバイス担当 1名継続) ② 4月 情報教育推進補助のための教育体制の整備 (情報教育担当事務補佐員 4名継続、うち自己負担分2名) ③ 4月 情報探究系人材教育の高度情報PC設備をリース 複数年契約(R12.10~R16.3) ④ 4月 BYODによる情報教育充実のため無線用設備リース 複数年契約(R12.10~R16.3) ⑤ 4月 情報融合系人材教育のために購入した高性能パソコンのサーバー更新料を支出 複数年契約(R12.4~R16.3) ⑥ 非常勤講師派遣旅費			

フォローアップ対象年度	令和6年度	高等専門学校名	熊本高等専門学校
-------------	-------	---------	----------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の高専

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第123条で準用する第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている高専

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた高専

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている高専

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する高専

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

<p>① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">確認を受けている</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> <tr> <td>対象に該当しない</td> <td style="text-align: center;">☐ チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック				
対象に該当しない	☐ チェック				
<p>② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>⑧ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				
<p>⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック				
<p>⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック				

フォローアップ対象年度	令和6年度	高等専門学校名	熊本高等専門学校
-------------	-------	---------	----------

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。		
	認定を受けている	☒ チェック
	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本校は、高専機構が推進する「Society 5.0型未来技術人材育成事業」の中のGEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）介護・医工分野で拠点校として地域との連携を始めている。令和4年6月に「合志市、熊本高等専門学校及び社会福祉法人合志市社会福祉協議会との活力ある地域の振興と市民の健康福祉の増進に関する包括的連携協定」を結び、介護分野だけでなく半導体分野でもすでに連携を行っており、今後も相互の人的及び知的資源等を活用し、地域社会の発展に貢献していく。また、令和5年2月には、「熊本県と独立行政法人国立高等専門学校機構熊本高等専門学校との包括的連携に関する協定」も締結し、地域社会の発展に協力するとともに、情報系人材育成・半導体人材育成に関しては、令和4年3月に発足した産学官連携組織「九州半導体人材育成コンソーシアム」のメンバーとして活動している。</p> <p>企業とは、半導体製造機械メーカーの東京エレクトロン九州との「東京エレクトロン九州・熊本高専人材育成プログラム」を令和元年度から展開中であり、長期インターンシップなどの連携教育を他の企業にも展開する計画である。また、「熊本高専地域連携振興会」（現在会員企業113法人）を中心に、本校と地域社会との連携・交流および地域イノベーションの促進による地域社会の発展を目指し、企業の技術課題や地域の課題を題材とした学生の教育活動を行って人材育成に協力していただいている。</p>	<p>○企業の技術課題や地域の課題を題材とした学生の教育活動を行っている。令和6年度の主な取組実績は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育」+「地域」+「研究」の総合的な実践プログラムである「新 閃きイノベーション」を引き続き実施しており、令和7年4月18日に、同プログラムの発表会を開催した。同プログラムは、企業で実際に問題になっている現実の課題の中から、本校の学生が解決できるものを選び、学生が授業の一環として、解決法を考え、プロトタイプの実験やシミュレーションを実際に行い、その結果を報告するという「社会実装型」プログラムとなっている。なお、発表会には、出題企業7社・2団体を始め、（一社）熊本県工業連合会会員企業、本校学生、教職員など約100名が参加した。 ・東京エレクトロン九州との長期インターンシップ形式による連携教育は継続して取り組んでおり、令和6年度は15名の学生が参加した。 ・熊本県を立会人として株式会社マイステシア及び熊本県海水産養漁業協同組合と「養殖業を核とした地方創生の推進に関する包括連携協定」を締結し、赤潮検知システム等の研究開発に4名の学生が参加した。 ・農研機構九州沖縄農業研究センターの研究員と本校教員の交流会を実施し、相互に研究紹介を行って研究シーズを共有し合う取り組みを行った。 	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>地域とは、サイバーセキュリティ、スマート農業、AT(Assistive Technology)の開発活用、マスター・ハイスクール事業、半導体人材育成など、多分野において連携してきたが、令和5年2月に締結した熊本県との包括連携協定および熊本県教育委員会との覚書に基づき、令和4年度から導入された高等学校での「情報I」の必修化に対応した高校や特別支援学校の教員対象のプログラミング研修も行っている。そのほか、①地域の自治体等と連携した小中学生対象のプログラミング教育やSTEAM教育の支援、②八代圏域小学生プログラミングコンテスト「やっプロ」に関連したプログラミング言語Scratch講座の実施、コンテスト応募作品の審査、③さまざまな理科連携授業、など多数の小中学生対象のSTEAM教育を実施している。これらの活動への参加受講した小中学生は、令和4年度の実績では、延べ4,615名であった。これらの活動には、現役教員263名、現役学生568名のほか、OB教員も82名（すべて延べ人数）が携わっている。なお、令和5年11月に開催された令和5年度熊本高専運営諮問会議（外部評価委員会）では委員から驚きと極めて高い評価を得ており、今後も継続していく予定である。</p> <p>また、DXに関してはマスター・ハイスクール事業を実施中の八代工業高校との連携・協力も模索している。</p>	<p>○STEAM教育等については、継続して実施している。令和6年度の主な取組実績は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年5月18日(土)：「おもしろサイエンスわくわく実験講座2024」を八代キャンパスにて開催。 ・令和6年6月29日(土)：小学4年生～6年生を対象に、Scratchを用いたプログラミング入門講座を実施。 ・令和6年7月28日(日)：八代市立松高小学校にて開催された松高小PTA夏まつり内の「科学工作教室 in 松高小学校」に、「スライム」および「ジャイロロケット」の2ブースを出展。当日は松高小学校の児童のほか、地域住民の方など計135組が参加。 ・令和6年8月24日(土)：公開講座「プログラミング言語Scratch講座」を実施。Scratchプログラミング経験のある小学生を対象とし、小学4年生から6年生までの3名が参加。 ・令和6年8月9日(金)～27日(火)：本校の教員を講師として、県の小・中・高・特別支援学校の先生を対象とするプログラミング教育研修を実施。令和5年2月に締結した熊本県との包括連携協定及び熊本県教育委員会と教育研究の振興に関する覚書に基づき、県との連携により実施した。150数名の先生が参加。 ・令和6年12月17日(火)：熊本県立八代市立坂本中学校にて、連携理科授業の一環として、2年生を対象とし連携理科授業「半導体について」を実施。 ・令和7年1月21日(火)：熊本県立八代中学校にて、2年生の2クラスを対象に、連携理科授業「霧箱による放射線の観察実験」を実施。 	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>近年、本校の女子学生が目覚ましい活躍をしている。例えば、令和5年12月に開催された「2023ロボコン アイデア甲子園全国大会にて最優秀賞」を受賞し、熊本県警本部にて同月開催された高校生サイバーセキュリティ・プレゼンコンペティションでも、5名中4名が女子のチームが最優秀賞を受賞している。本事業では、更なる女子学生の確保に向け、以下を展開予定である。</p> <p>①小・中学生を対象とした参加型の充実した企画イベントの開催</p> <p>②活躍する女子学生を取り上げた広報誌や学校宣伝映像の制作、SNSを有効活用したプロモーションの展開</p> <p>③推薦選抜において「女子枠」設置の検討</p> <p>また、留学生確保に当たっては、3年次に編入する外国人留学生は毎年4～5名いるが、タイ高専からの編入留学学生の受け入れも含め、今後さらに拡大の予定である。本校の校長や教員が海外の提携校へのプロモーションを行うとともに、実際の講義も行って留学生の獲得を進める。その他、これまで協定を結んでいる海外の大学と連携し、短期留学や交換留学等を踏まえつつ、留学生の確保に努めていく。3ヶ月程度の短期留学学生の受け入れにもさらに力を入れ(令和5年度は15名)、国際寮を含む学生寮を有効活用しながら日本人学生のグローバル意識の涵養を継続して図っていく。</p>	<p>○小・中学生を対象とした参加型の充実した企画イベントを開催した。主な取組実績は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年6月15日(土)～令和6年12月14日(土) 熊本高専ハカセ塾を開講。23名の受講生(小学5年～中学2年)を対象に13回の講座を実施。同イベントは、「次世代科学技術を担う理数系人材の発掘・育成に向け、科学技術に対する高い学習意欲を有する小中学生を対象に、自身の強みや志向性を見極め、他者との関わりの中で主体的に人生を切り拓くための態度を育成することを目的としている。 ○パンフレットに、本校で活躍する女子学生、卒業後に活躍する女性卒業生の様子を多く取り入れるようにした。 ○推薦選抜に限らず、本校の入試制度の改革へ向けて全般的な議論を開始した。 ○留学生の受け入れ確保に向けた主な取組実績は以下のとおり。 ・令和6年12月19日(木)～22日(日)に、タイ王国プリンスチュラポンサイエンス高校(PCSHS) サトゥーン校で開催された日タイ高校生ICTフェア(TJ-SIF 2024)、ゲームプログラミングハッカソンイベント(TJ-GPH)に参加した。 ・令和7年1月24日(金)、JICA・エジプト高専(EJ-KOSEN)プロジェクト関係者が八代キャンパスを訪問し、教育施設等を案内した。 ・短期留学学生の受け入れも継続的に実施しており、令和6年度はシンガポールの協定校から前期8名、後期8名、計16名の学生を受け入れ、卒業研究を行う日本人学生連と一緒にプロジェクトに取り組んだ。 	

④ 他の大学（外国大学を含む）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>平成31年2月締結の「国立大学法人九州大学工学系部局と九州地区及び沖縄に所在する国立高等専門学校との連携・協力に関する包括協定」により、短期研修生の相互受け入れ、社会的ニーズに対応した先端的科学技術に関する連携教育の推進のほか、高専学生の入学、教員による共同研究や学術・技術交流の推進が、これまで通り実施される予定である。現在、本校教員2名が九州大学とのクロスポイントメントを行っている。すでに半導体分野で1期生が九州大学に編入しており、今後も拡大の予定である。また、令和4年3月締結の熊本大学工学部と熊本高等専門学校との包括的連携に関する協定により、連携教育と共同研究を進めていく予定である。さらに、昨年8月には校長がハワイ大学を訪問し、研修旅行を含めさまざまな連携を行う準備を開始している。</p> <p>高等専門学校との連携としては、高専機構が推進する「Society 5.0により実現する未来技術をリードする高専発！「Society 5.0型未来技術人材」育成事業」で、GEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）の介護・医工分野での拠点校として、ならびにCOMPASS 5.0（次世代基礎技術教育のキャリアアップ）での半導体分野において拠点校として連携体制が整っている。後世保高専、久留米高専、有明高専とは半導体教育に関する連携の協議を行い、すでに専攻科では令和6年度入学者より正式に単位互換を実施することになっている。</p>	<p>○既に締結されている協定を推進している一方、他大学・他機関との連携についても進めている。既に締結されている協定に関する主な実績は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国立大学法人九州大学工学系部局と九州地区及び沖縄に所在する国立高等専門学校との連携・協力に関する包括協定」に基づき、本校専攻科生の単位認定を行った。また、同協定に基づき本校専攻科生の修了認定を行った。 ○令和6年度も香港VTC(Vocational Training Council: 香港職業訓練協議会)と本校が共催するIDEATHONを開催し、本校の学生14名に加え、有明高専から学生2名の計16名が参加した。 	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>既に数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシーレベルの認定を受けているが、熊本キャンパスの電子情報系3学科（129名）に八代キャンパスの複合・融合工学系3学科（120名）を加え、新たに6学科共通のカリキュラムの全学科が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に認定されることを目指す。</p> <p>想定している6学科共通科目は、以下の通りである。</p> <p>(1) 情報リテラシー（1年・2単位）</p> <p>(2) 情報処理Ⅰ（1年・1単位 後期）</p> <p>(3) 情報処理Ⅱ（2年・1単位 前期）</p> <p>(4) データサイエンスⅠ（2年・1単位 後期）</p> <p>(5) データサイエンスⅡ（3年・1単位 前期）</p> <p>(6) 情報処理Ⅲ（3年・2単位）</p> <p>ただし、学科の特徴の違いにより、熊本キャンパスと八代キャンパスで6学科共通科目の名称や学年配置が変更となる可能性もある。</p>	<p>○現在の学科体制で、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」への申請に向けて準備を実施。令和7年5月に申請。新体制に移行後も速やかに申請予定。</p> <p>6学科共通科目については、カリキュラム、シラバス等について設定済。</p> <p>(1) 情報リテラシー（3単位）</p> <p>(2) プログラミング入門（1単位）</p> <p>(3) データサイエンスⅠ（1単位）</p> <p>(4) データサイエンスⅡ（1単位）</p> <p>(5) プログラミング（2単位）</p> <p>の5科目としている。ただし、キャンパス間で学年配置は異なる。</p>	

高等専門学校名	熊本高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	----------	------	-------------------

4.外部資金の状況（全学）

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目																			
外部資金獲得額	232,772	***																	

特記事項

<p>1.情報系組織の状況 学生の入学・在籍状況の取容定員等の編入学定員0人とは、若干名を意味している。</p> <p>2.高等専門学校全体の状況 学生の入学・在籍状況の取容定員等の編入学定員0人とは、若干名を意味している。</p>
--